

県内経済動向調査結果(平成21年7月分)

平成21年9月7日

産業経済政策課

概 況

県内経済は、総じて厳しい状況が続いているものの、製造業で持ち直しの動きが見られる。

主な業種	状 況
製 造 業	減産が続いているものの、持ち直しの動きが見られる 生産額、受注額はそれぞれ前年同月比21.5%減、同24.8%減となった。 3か月先の業況見通しDIは15.7から1.2となった。
建 設 業	厳しい状況が続いている 受注額、完工高はそれぞれ前年同月比7.8%減、同6.2%減となった。3 か月先の業況見通しDIは▲6.3から▲25.0となった。
小 売 業	引き続き弱い動きとなっている 売上高は前年同月比で4.2%減、3か月先の業況見通しDIは▲39.3から ▲50.0となった。
サービス業	弱めの動きとなっている 売上高は前年同月比3.0増、3か月先の業況見通しDIは▲7.4から ▲19.2となった。

製造業の動向

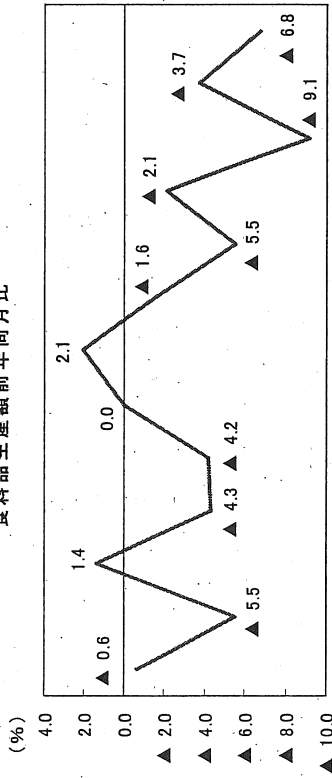
1 食料品

弱い動きが続く

生産額は前年同月比6.8%減。3か月先の業況見通しDIIは▲7.1から14.3となった。

酒類では、首都圏での業務用を中心に落ち込みが続いている。加工食品においては、お中元用の贈答品が低調となっており、全体を引き下げ要因となった。

食料品生産額前年同月比



20年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
21年

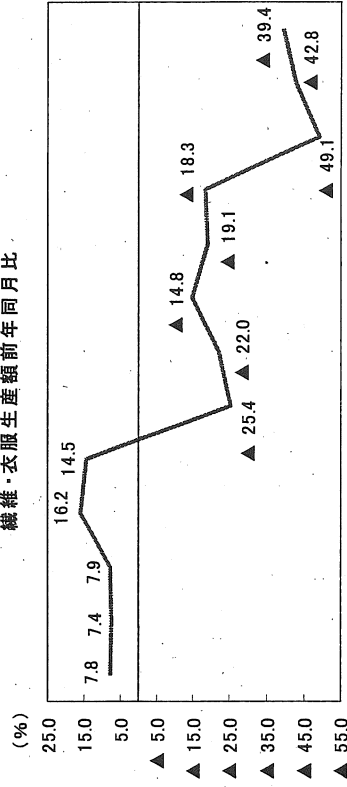
2 繊維・衣服

低調な生産活動が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比39.4%減、同38.4%減。3か月先の業況見通しDIIは0.0から33.3となった。

店頭での売上減や低価格化の影響により、低調な生産活動が続いている。秋物の受注等により工場がフル稼働している企業も一部見受けられる一方で、雇用調整のため休業を行っている企業もあり、総じて見れば、厳しい状況が続いている。

繊維・衣服生産額前年同月比



20年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
21年

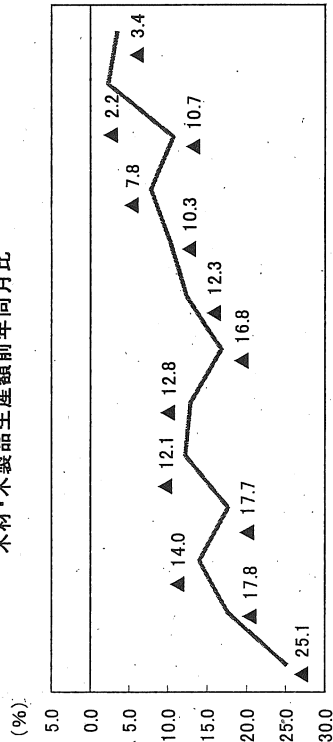
3 木材・木製品

23カ月連続マイナス、厳しい状況が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比3.4%減、同9.8%減。3か月先の業況見通しDIは8.3から▲8.3となった。

県内、県外を問わず、全国的に住宅市況に回復の兆しがない状況となっており、減産となっている。製品販売価格の引き下げ、仕入れ価格の上昇により収益確保が困難となっている状況も見受けられる。生産調整のため休業による雇用調整を行っている企業もあり、依然として厳しい状況が続いている。

木材・木製品生産額前年同月比



20年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
21年

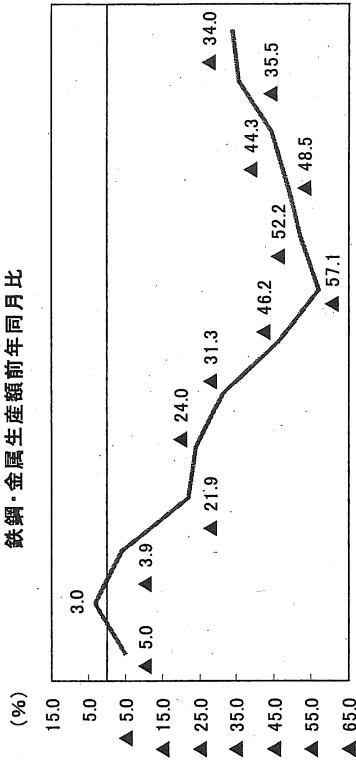
4 鉄鋼・金属製品

減産が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比34.0%減、同37.1%減。3か月先の業況見通しDIは36.4から27.3となった。

自動車関連において受注の着実な回復が見受けられることなどにより、減産が緩和傾向にあるものの、依然として生産額が前年同月比3割以上のマイナスとなっている企業が多く、本格的な回復基調に至るまでとはなっていない。

鉄鋼・金属生産額前年同月比



20年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
21年

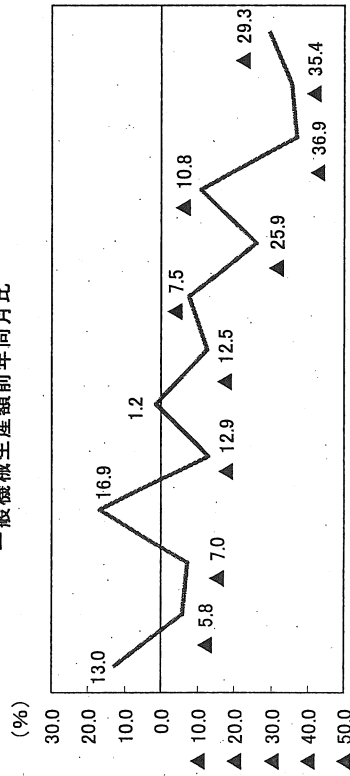
5 一般機械

悪化している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比29.3%減、同55.1%減。3か月先の業況見通しDIは0.0から▲42.9となった。

公共工事関連、プラント関連では堅調な生産活動となっているものの、一般産業機械では、一部中国向け生産が好調なほかは低迷しており、休業を実施する企業も見受けられる。

一般機械生産額前年同月比



2020年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
2021年

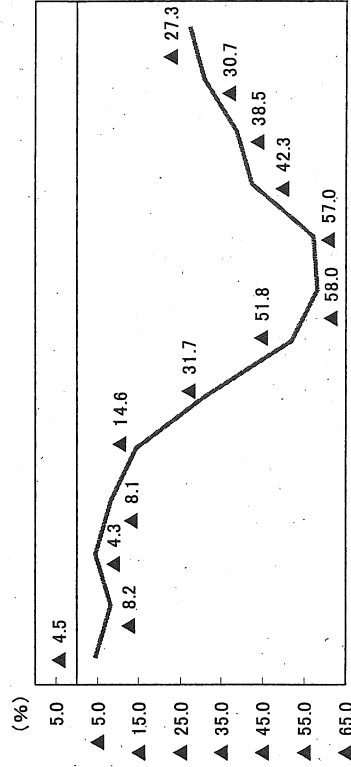
6 電気機械

一部生産が持ち直しつつあり、減産が緩和している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比27.3%減、同27.9%減。3か月先の業況見通しDIは31.6から▲10.5となった。

コンデンサーでは、前年同月比マイナスが続いているものの、着実に生産が持ち直しつつある。光ファイバー関連で前年同月比7割以上の減、携帯電話関連で前年同月比6割以上の減と依然として大幅な減産が続いている企業も見受けられるものの、総じて見れば減産が緩和している。

電気機械生産額前年同月比



2020年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
2021年

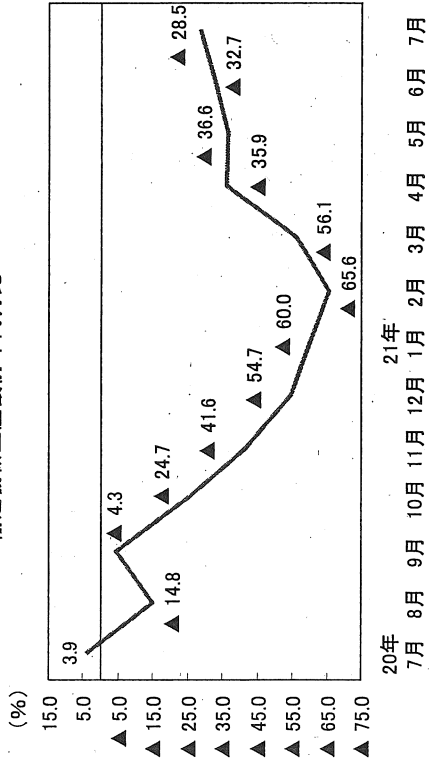
7 輸送機械

減産が続き、弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比28.5%減、同31.0%減。3か月先の業況見通しDIIは50.0から16.7となった。

生産が回復しつつあり、残業時間の増加や派遣社員を雇用した企業が一部見受けられる。一方で、操業停止日や休業日を設ける企業もあり、総じて見れば減産が続き、弱めの動きとなっている。

輸送機械生産額前年同月比



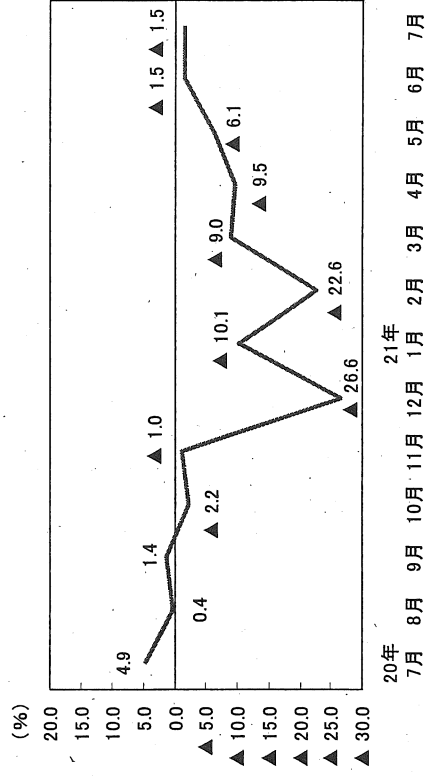
8 精密機械

医療機器関連で堅調

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比1.5%減、同2.7%減。3か月先の業況見通しDIIは0.0から▲12.5となった。

医療機器関連で前年比増の堅調な動きが続いており、今後も安定した生産が見込まれている。計量関連では、生産額の回復が利益の向上につながるなどの厳しい業況が見受けられる。休業を実施するなどにより、前年同月比でマイナスとなっている企業が多い。

精密機械生産額前年同月比



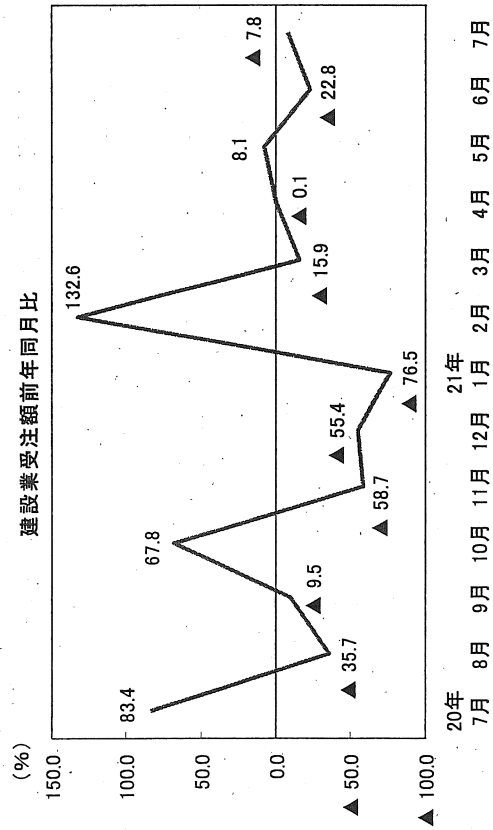
建設業の動向

建設業

厳しい状況が続く

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比7.8%減、同6.2%減。3か月先の業況見通しDIIは▲6.3から▲25.0となった。

経済対策としての公共工事の前倒し発注などにより、発注件数が多くなっているものの、受注競争の激化が続いており、収益状況が厳しいものとなっている企業も多い。



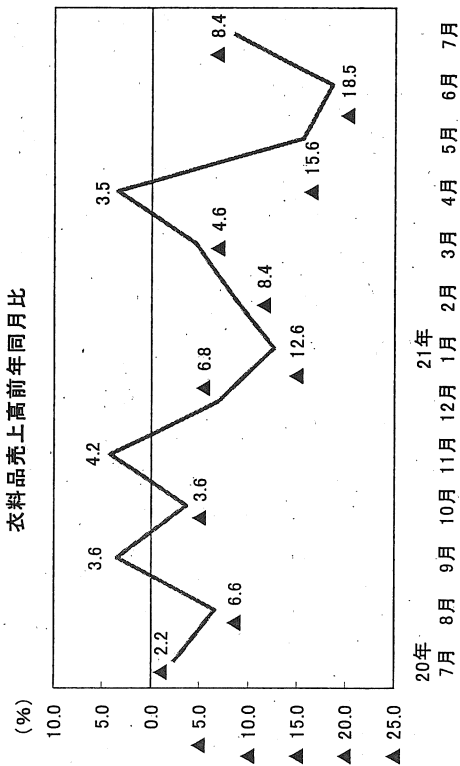
小売業の動向

1 衣料品

低調な売上となっている

売上高は前年同月比8.4%減。3か月先の業況見通しDIは▲60.0から▲50.0となった。

セールの実施により売上を伸ばした企業もあるものの、夏のボーナス支給の減少や天候不順で夏らしい暑い日が少なかったことなどにより、総じて低調な売上となっている。

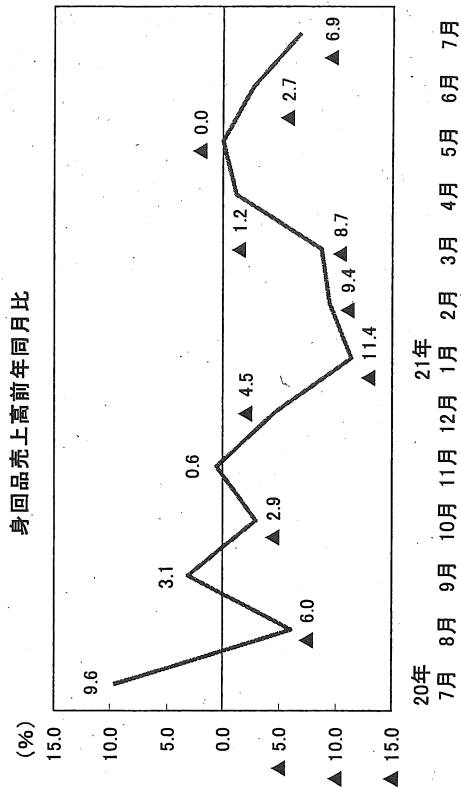


2 身回品

売上の落ち込みが続く

売上高は前年同月比6.9%減。3か月先の業況見通しDIは▲33.3から▲83.3となった。

天候不順で夏らしい暑い日が少なかったことから、ホームセンターでは扇風機などの夏物商品がの売上が不振であった。化粧品においては、一人あたりの購入額が少なくなると、総じて見ると売上の落ち込みが続いている。



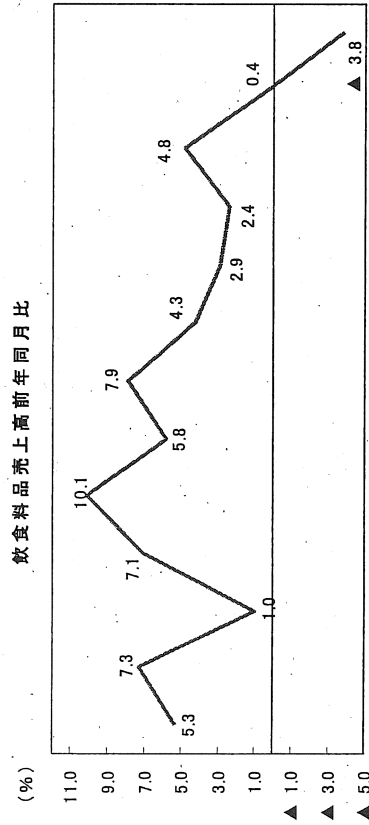
3 飲食料品

酒類、清涼飲料の売上が低調

売上高は前年同月比3.8%減。3か月先の業況見通しDIは▲50.0から▲54.5となった。

冷夏による影響から酒類や清涼飲料の売上が低調となっている企業が見受けられたほか、コンビニで、タスポ導入から1年が経過し、その効果が一巡したことから売上が落ち込んだ。

飲食料品売上高前年同月比



20年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
21年

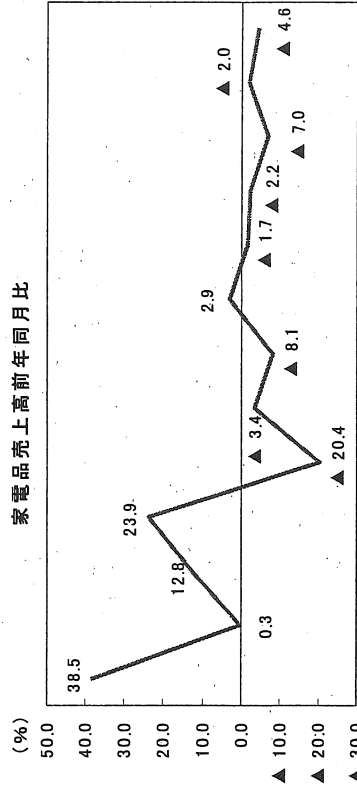
4 家電品

やや弱い動きとなっている

売上高は前年同月比4.6%減。3か月先の業況見通しDIは0.0と変わらな

い。
薄型テレビの売上は好調であったものの、夏に最需要期を迎えるエアコンが不調であったことから、総じて見るとやや弱い動きとなっている。

家電品売上高前年同月比



20年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
21年

サービス業の動向

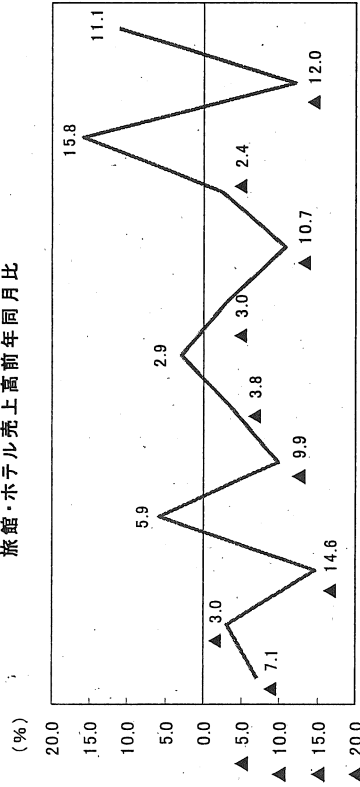
1 旅館・ホテル

婚礼部門が伸びる

売上高は前年同月比11.0%増。3か月先の業況見通しDIは▲6.7から▲28.6となった。

一部企業において、婚礼部門が好調で件数、金額が倍増したことなどの影響により、全体として前年同月比で1割以上の売上高の増加となった。宿泊部門は、横ばい若しくは低調となっている企業が多い。

旅館・ホテル売上高前年同月比



2020年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
21年

2 その他サービス

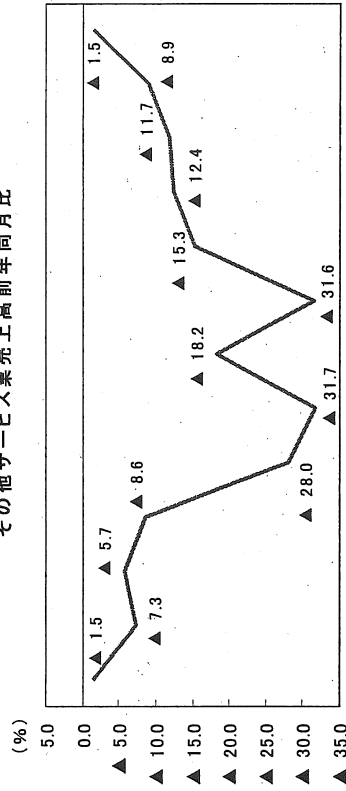
弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比1.5%減。3か月先の業況見通しDIは▲8.3と変わらな

い。

倉庫業では、自動車関連部品の増加により堅調となっている。旅行業では、宿泊のツアーの落ち込みや新型インフルエンザの影響などにより低調な動きとなっている。運輸業では、タクシー客の減少が顕著なものとなっている。業種により景況感が異なるものの、総じて見れば弱めの動きとなっている。

その他サービス売上高前年同月比



2020年 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
21年